第3種郵便物認可　北海道新聞　2011年（平成23年）12月9日（金曜日）

煙突にサンタの赤い布

重要証拠を入手 白いヒゲも

サッポロファクトリーで発見

札幌市中央区の商業施設サッポロファクトリーで8日未明、赤い布が見つかった。どうしんサンタ捜索チームは、発見された場所や目撃情報などから、サンタクロースの重要な手掛かりとの見方を強め、"赤い布"を重要な資料として同施設から預かり、専門機関に分析を依頼。「捜索は着実に成果を上げている」と聖夜に向けチームの士気も高まっている。

謎の「赤い布」が発見されたサッポロファクトリー煙突広場

サッポロファクトリー
札幌市中央区北2条東4丁目にあるショッピングモールを中心とした大型複合施設。1993年に開業。飲食店のグルメ、ファッション、雑貨などのさまざまな種類のショップが営業しており、札幌はもちろん道内外からの観光客が訪れる人気スポットだ。運営はサッポロ不動産開発株式会社。

「なぜこんな所に赤い布があるのだろう——」。8日午前1時30分ごろ、赤い布は深夜の館内巡回中にサッポロファクトリー（札幌市中央区北2東4）内にある「煙突広場」で見つかった。懐中電灯を向けると、真っ赤な布が無風になびいていた。凝視すると黒いすすのようなものが付着しており、煙突の下にある扉部分に引っ掛かった状態。扉は鉄製で、通常、施錠されている。「鍵がなければ絶対開けられない。布は突然光って消えた」（警備員）という。

発見場所は、サッポロビールの前身で1876年（明治9年）に創業した日本初のビール工場「開拓使麦酒醸造所」の跡地であり、高さ40㍍もの煙突はその象徴としてファクトリー開業後も残された。れんが造りの歴史ある「煙突広場」は人気スポットの一つ。

同施設によると、報告を聞いた際は「特に不思議に思わなかった」が、現物を見ると白いヒゲのようなものが付着。「先日の道新さんの紙面を思い出して連絡しました」と振り返る。

「人為的じゃない」
首をかしげる関係者

同施設によると、7日午後11時の定期巡回時は異状はなく、物音なども確認されなかった。煙突広場の通路に設置された防犯カメラの録画映像にも、人影などは残っていなかった。

警備員が煙突内を調べたところ、黒いすすの塊が多数確認された。塊は通常煙突の上部にしかなく、煙突は今月上旬、年に一度の大掃除が行われたばかり。この事態を不審に思い、同施設に早急に報告し、どうしんサンタ捜索チームへ赤い布発見の連絡が舞い込んだ。

警備員は「清掃後に施錠した際と違った。熟練の清掃員でも短時間に登ることは難しく、まして40㍍のはしごを持っている人なんていない」と煙突を見上げる一方、「サンタクロースが聖夜の下見に来て、煙突部分に衣服が引っ掛かってしまったのではないでしょうか。歌にもあるようにサンタは"あわてんぼうなのかも"」と笑みを浮かべた。

煙突の減少でサンタ受難

サンタは煙突が減り、プレゼントを届けるのも苦労しているかも

サンタクロースは、これまで"よい子"の枕元へ、各家庭の煙突を通って来るのが有力とされてきた。しかし、昨今の住宅事情の変化により、煙突のある家は減少傾向。ここ数年でサンタクロースの目撃情報が少なくなっているのは、煙突の減少が一因との意見も多い。

ライフスタイルの変化に 新手法で対応も

以前は、煙突のある場所を見張ってると、サンタクロースとの遭遇率が高くなるとされており、どうしんサンタ捜索チームは、"よい子"がおり、かつ煙突のある家を探すものの「予想以上に少ない」と苦慮していた。そんな中、札幌市内でひときわ大きな煙突があるサッポロファクトリーの「煙突広場」を、サンタクロースの立ち寄りスポットとして有力視している。

煙突がない家庭にも"よい子"さえいれば、サンタクロースがやって来るのはなぜか。サンタの国ノルウェーの研究家によると、サンタクロースは新たな進入経路として、ベランダを利用しているという。空からやってきたサンタクロースはマンションの屋上、一戸建ての場合は屋根にトナカイのそりを止め、ベランダから"よい子"の元へプレゼントを届ける。

"よい子"であれば、ベランダの鍵を開けたまま寝る必要はなく、ポイントはいつものようにベッドで寝て待っていることと強調する。「サンタクロースは鍵がなくても、みんなの元へ飛んで行ける魔法を持っているのだから」。

証拠品を専門機関へ
DNA鑑定など本格的に調査

サッポロファクトリーから預かった赤い布は8日、札幌市内の専門研究機関に持ち込まれた。DNA鑑定を含めさまざまな角度から赤い布を検証する。

布は、一見普通の布と変わらない。同機関の研究員は「真冬の上空を音速よりも早くかけ抜けるサンタの体感温度は氷点下50度より低い」と見ており、「赤い布がサンタの衣服の一部だとしたら特殊な素材が使われているはず」と予測。素材や形状などの分析結果から「客観的に証明したい」と冷静だ。

サンタの存在を証明する決定的な手掛かりはこれまで残っておらず、結果次第では「早急に学会で発表する」と目を輝かせる。また、第一発見者の警備員が見たという「一瞬光った」メカニズムも検証する見通し。

同チームでは、サンタに関わる一部によるものなのか、単なる見間違いなのかも含めて分析を重ねてもらう。

サンタと高所に因果関係か

煙突を登るサンタとイルミネーションが印象的な「サッポロファクトリー煙突広場」

今回の発見現場となったサッポロファクトリーの煙突には、煙突を登る巨大なサンタクロースの人形が設置されている。夜間ライトアップして、クリスマス気分を盛り上げる。

また、この時期は館内のアトリウムに、十勝管内広尾町から運ばれてきた高さ約15㍍の巨大な「サッポロファクトリージャンボクリスマスツリー」が鮮やかな電飾をまとい、毎年多くの市民の目を楽しませている。捜索チームでは「さまざまな演出が、サンタの目に留まり、親近感を抱いた」との見方を強めている。

サンタの国ノルウェーのある専門家は、煙突をはじめ、さっぽろテレビ塔や道新ビルなど比較的高い場所で目撃されていることについて「トナカイのそりで空をかけるのは、姿を見せないため。高い場所を好む点は必然と一致している」と共通点を指摘する。

同チームはこの煙突広場でもサンタ発見の期待を寄せており、夜間の張り込みに力を入れる予定だ。

サンタと子どもの架け橋に
サッポロファクトリーが捜査協力を表明

サッポロファクトリーは、8日未明に発見されたサンタに関する有力情報を受け、どうしんサンタ捜索チームに全面協力することを決めた。チームが行う"見回り"をファクトリーの警備員が担当。深夜は警備員を増強し、同施設内に設置されている防犯カメラのうち、煙突広場周辺の5台を煙突に向ける。

同施設は、サンタクロースに関する映像が過去に残っていないかを検証するため、全社員で過去の映像を見直し作業を既にスタート。不審な動きが発見された場合、証拠品として同チームへ提出する方針だ。最も有力視されているのは、毎年11月に開催されている「サッポロファクトリージャンボクリスマスツリー点灯式」。多くの人々がその美しさに魅了されている間、不思議な現象が起こっていなかったか確認している。

サッポロファクトリーのインフォメーションチーフを務める安野枝理（やすの・えり）さんは「クリスマスの時期に、私たちの施設が子どもたちに加え、サンタクロースからも注目されていると思うとうれしい。私たちが一足早いクリスマスプレゼントをもらったような気分」と喜ぶ一方、「サンタクロースはいると信じています。これからもサンタクロースに立ち寄ってもらえるように、すてきな館内づくりに力を入れたいと思います。」と語った。

「サンタも気軽に立ち寄れる館内づくりに力を入れたい」と微笑む安野さん

同施設では、ジャンボツリーでも提携を結んでいる十勝管内広尾町「サンタメール」の出張受付所を今月4日まで設置していた。今年は連携を強化し、ツリーにも手掛かりが残されていないか調査を共同で進める。

サッポロファクトリーのジャンボツリーは、同アトリウム内で25日までの毎日午後4時〜同10時に点灯。

どうしん夢プロジェクト 広告企画

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月中旬朝刊予定

（C）北海道新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。